

## 生涯学習大綱後期計画策定に向けた課題のまとめ

アンケート調査からの主な課題	グループインタビュー結果から主な課題	各課検証調書のCDランク評価の事業課題	後期大綱整備に向けた課題	後期大綱の基本的な方向性
<p><b>1 生涯学習活動の周知について</b> 「伊賀市生涯学習推進大綱」に基づく生涯学習推進事業の周知</p> <p><b>2 生涯学習活動への参加促進に向けた対応</b> 自由に使える余暇時間等を考慮し、世代に応じた生涯学習メニューや開催時間などを検討</p> <p><b>3 知識や技能を活かす方法について</b> 知識や技能を活かす活動と生涯学習を絡めた方向性と、これに応じた対策を検討</p> <p><b>4 生涯学習活動に参加する意向について</b> 潜在的な生涯学習活動に参加する意向が伺えることから、今後参加条件の整備に向け、活動の時間帯、場所などに留意した生涯学習環境の整備を検討</p> <p><b>5 関心のある生涯学習活動の分野について</b> 年齢層や性差に配慮した活動環境を提供することが必要</p> <p><b>6 生涯学習活動を行う方法について</b> 生涯学習活動を行う方法については、グループやサークル活動に参加したいとの回答が多いことから、集団での参加が可能な活動メニューの検討</p>	<p><b>1 動機について</b> (1) 子供のころやっていたものを退職と同時にもう一度始めたなど、退職を契機としたサークル活動参加者が多く、退職後の余暇を充実させている (2) 隣近所の方からの勧めによる入会など、勧誘をきっかけとしたサークル加入者も見られる (3) 自主的に自己の趣向に応じたサークルに入会したとの回答もあった (4) 後から入ると入りにくい (5) 老人クラブのサークルに入っていない人は引っ込み思案</p> <p><b>2 参加者の減少</b> カラオケや舞踊など長い歴史のあるサークル活動があるが、現実的にサークル活動への参加者が減少の傾向にある</p> <p><b>3 伊賀市の特色あるサークル</b> 俳句のサークルは、各地区にあり40年の歴史を数えるものもあり、伊賀市の特色となっている</p> <p><b>4 助成金</b> 公民館そのものが縮小し、助成金が少なくなることなど、もう少し公民館自体に力を入れて欲しいとの要望がある 自分でお金を払っているサークルもあるが、補助があれば助かる</p>	<p><b>1 ボランティア登録制度の見直し・拡充</b> 登録されているボランティア・ティーチャーの活用に偏りがあり、専門的な技術や経験をもつ方に協力いただくことにより、地域に根ざした教育を行う体制づくりが必要</p> <p><b>2 複数の主体が重複して活動を展開</b></p> <p><b>3 新たな参加者や相談者の停滞</b> 健康相談など継続実施することで生活習慣病予防を進めているが、新たな参加者が停滞している</p> <p><b>4 補助対策</b> 国の政策変更により新規クラブに対する補助がなくなり、財政面での創設支援ができなくなった</p> <p><b>5 男女共同参画の課題</b> 女性の登用数を増やすことが難しい審議会もあり、今後、どう働きかけていくのが課題で、ここ3年は、伸び悩んでいる</p> <p><b>6 活動情報の浸透化</b> 経済状況の悪化や市民活動団体の活動情報の発信などの広報活動が浸透していない</p> <p><b>7 市民活動支援センターの運営</b> 利用者や市民活動団体が、市民活動支援センターの利用促進を促すためには、利用者・市民団体が中心となり運営に参加することが必要</p>	<p><b>1 活動を始めるとききっかけづくり</b> -生涯学習活動の周知について- (1) サークルメンバーから勧誘促進 (2) 広報等によるサークル活動情報の提供（地区単位で情報誌みたいなものも検討） (3) ダイレクトメールによる勧誘 (4) 若い世代には、インターネットを使い ア ホームページの活動 イ ツイッターなどを活用した情報提供 ウ 子育て層には健診や相談の際にサークルを紹介などの方法を検討</p> <p><b>2 生涯学習活動への参加促進に向けた対応</b> (1) 活動の開催時間帯や開催曜日などを検討（休日の余暇時間をうまく活用） (2) 活動場所（施設）運用方式の検討 (3) 活動世代にあわせたサークルの開設 (4) 発表の場や結果を公開する機会の拡大 (5) 使える日の制限 ゆとりとしてやっているのに制限があるのが課題</p> <p><b>3 地域に貢献する生涯学習活動</b> (1) 生きがいとなるボランティア活動などの促進（前期では進んでいない項目として） (2) 防災活動や国民保護活動などの活動促進 (3) 地域貢献活動に向けた他事業との連携</p>	<p><b>1 ライフスタイルに配慮した生涯学習活動の展開</b></p> <p><b>2 地域貢献など生涯学習活動を活かしたまちづくりへの展開</b></p> <p><b>3 世代間交流などの活動と生涯学習活動の連携による社会教育実践の場としての活動展開</b></p> <p><b>4 防災や防犯など日常生活に密着した題材をテーマとした生涯学習の展開</b></p> <p><b>5 余暇消費の場となるようワーク・ライフ・バランスの一助となる生涯学習</b></p> <p><b>6 地域間の連携による生涯学習活動体系の確立</b></p> <p><b>7 生涯学習活動の場の拡充対策と既存施設の利活用方策の検討</b></p> <p><b>8 伊賀市の伝統文化を継承する生涯学習展開にあわせた子ども達参加促進</b></p>

アンケート調査からの主な課題	グループインタビュー結果から主な課題	各課検証調書のCDランク評価の事業課題	後期大綱整備に向けた課題	後期大綱の基本的な方向性
<p><b>7 加齢とともに参加指向が低下</b> 年齢を増すにつれ、参加意向が低迷していくといった傾向にあり、元気高齢者や生きがい創出に向けた活動展開が必要</p> <p><b>8 活動経費について</b> 今後の生涯学習活動に参加する意向について、生涯学習活動を始めるための条件として重視するものとしては、「時間に余裕が生まれること」、「自分にとって必要と感ずること」、「経費がかかり過ぎないこと」があげられ、余暇はあるものの活動経費がかかりすぎないことが要点</p> <p><b>9 生きがいや友達づくり</b> 生涯学習活動を行いたい理由については、「生きがいを持つため」が過半数を占め、「健康維持や体力づくりのため」、「友達・仲間づくりのため」が多く、今後の活動展開において留意が必要</p> <p><b>10 知識や技能を活かす方法</b> 知識や技能を活かす方法については、「地域活動やボランティア活動に活かしたい」、「グループやサークル活動で活かしたい」が過半数を占め、「子育てや子どもの健全育成、教育活動で活かしたい」がこれに続く回答で、男女とも「地域活動やボランティア活動に活かしたい」との回答が多く、生涯活動と生涯学習を絡めた方向性が示唆</p>	<p><b>5 活動場所</b> (1) お金をかけて新しいところに移るよりも古い場所でちゃんとしてもらえれば充分 (2) こぢんまりしているほうが親密性がある</p> <p><b>6 年齢や知識のギャップ</b> 年齢、知識のギャップがあり、入ろうと思ってもなかなか受け入れられない</p> <p><b>7 活動の継続性</b> 広告など出したいが費用がなく、続けるにはいるが尻きれトンボになりがち</p> <p><b>8 地域貢献</b> 地域に貢献できるような会でありたい</p> <p><b>9 子どもの参入</b> 方向性を小さい子どもに目を向けて</p> <p><b>10 活動の時間帯</b> 公民館活動は昼間が多く、やってみたいが参加できない</p> <p><b>11 情報提供方法</b> 地区単位で情報誌みたいなものを作ってはどうか</p> <p><b>13 コミュニティをベースとした生涯学習活動</b> 基本的には向こう三軒両隣とコミュニケーションを広めながら誘い合いをしながら地域に広げることを行っている</p>	<p><b>8 活動の場への要望</b> 地区公民館や分館で実施する講座の情報収集したが、検討までの会議に至らなかった。 こうした中で、各地区公民館ではなく地域の地区市民センター等を活用し実施したい。</p>  <p><b>1 補助などが付かないために実施できない場合や、活動の促進をかけることができない事業については、見直しをかける</b></p> <p><b>2 事業を進めているが、検討会議など予定をしたところまで進まなかった</b></p> <p><b>3 女性の登用等については、女性の参画可能なものを抽出し、目標値を検討するなどの対策により、評価の向上につながる目標値を定める</b></p> <p><b>4 経済の低迷など外的な要因により取組が進行していない事業については、改めてその方策を検討する</b></p> <p><b>5 国民保護に関する活動については単独では実施しづらい事業であることなども考慮し、東日本大震災など防災と絡めた学習活動の展開を検討する</b></p> <p><b>6 事業の開始時期が遅くなったなどの理由により評価が低くなった事業については、タイムスケジュールを見直し、後期の目標を設定する。</b></p> <p><b>7 ボランティア活動などについては、登録制度の状況を再度確認し、現状にあった事業推進体制を検討する。</b></p>	<p><b>4 知識や技能を活かす方法について</b></p> <p><b>5 潜在的な生涯学習活動に参加ニーズの掘り起こし</b></p> <p><b>6 年齢層や性差に配慮した活動環境</b> (1) 男性は健康スポーツ活動 (2) 女性は趣味の活動 (3) 年齢層によるニーズの相異に対応した活動環境整備</p> <p><b>7 生涯学習活動を行う方法</b> (1) サークル主体の活動における課題 ア サークル活動の世代交代が進んでいない イ 市内の各地域間のサークル活動の連携 ウ イベント開催の企画要望に対応した施策展開 エ 世代間交流の促進活動（孫と高齢者の交流など） オ 伝統文化を伝える講座（若者と交流の場ともなる） カ 指導者の人材バンクに登録制度 キ 交通手段を考えてもらいたい (2) 活動経費の補助 活動経費の補助に関する要望がでていくことへの対応策の検討 (3) 地域福祉と連動した生涯学習サークル (4) 学童保育など放課後の活動と連動した生涯学習活動の展開 (5) 市有財産の有効活用 最近学校も統合しているので廃校になった場所などを活動の場として提供するなど市有財産を有効に活用した生涯学習活動の場づくり</p>	<p><b>9 コミュニティ活動と生涯学習の連携による地域福祉にも資する生涯学習活動の展開</b></p> <p><b>10 固定化しがちなサークル活動を柔軟に参加者を勧誘することができるような環境整備</b></p>